

子供たちを育む特別活動

校長 増田 好範

「おはようございます」「おはようございます」朝の本町小学校の玄関には、気持ちのよいあいさつが飛び交います。毎朝、環境委員会の子供たちが、あいさつ当番とプロムナードにある花壇の灌水当番を行ってくれています。あいさつ当番の子供たちは、「目を見て 最初から最後まで聞こえる声で あいさつを」と書かれたプラカードとともに、レッサーパンダとワニのハンドパペットで、登校する子供たちに「おはようございます」と語りかけます。表情に元気がなかった子供も、ぬいぐるみが動くときニコッとして、玄関を過ぎていきます。環境委員会の活動は、本町小学校の朝に、欠かせない活動となっています。

本町小学校には、環境委員会の他に、代表・集会・報道・保健・給食・体育・図書委員会の7つの委員会があり、子供たちが活躍しています。代表委員会は、4年生のクラス代表と5・6年生、その他の委員会は、5・6年生の希望をもとに所属が決められています。それぞれの委員会の活動は、学校全体の生活をよりよくすることや人間関係を豊かにするために機能しており、委員になった子供たちは、活動を通して、自らの興味・関心をもとに自主的に行動する力を伸ばしたり、上級生として学校全体を牽引するリーダーシップを身に付けたりしています。4月から6月までの活動を見ても、例えば、1年生を迎える会やこいのぼり集会の運営、給食の時間や掃除の時間の校内放送、水質検査やせっけんの補充、栄養黒板の記入や食育推進のポスター作成、運動会の準備体操やプール開き集会の運営、本の貸出・返却や読書週間の取組など、多くの場面で各委員会の子供たちが生き生きと活躍しています。

委員会の活動は、学校の教育活動の中で、「特別活動」に位置付けられています。学校での教育内容が定められた文部科学省の学習指導要領では、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育むことを目指す教育活動」として、目標が示されています。

実は、この「特別活動」には、様々な内容があります。高学年で行われる委員会活動だけでなく、1年生からいろいろな活動が行われ、子供たちの資質・能力を育てています。

特別活動の内容は、大きく4つに分けることができます。①学級活動、②児童会活動、③クラブ活動、④学校行事です。

学級活動には、学級の問題を解決するために学級会(話し合い)を行う、学級内の仕事を分担して係や当番を行う、避難訓練で安全に行動する、食育で望ましい食習慣の形成を図る、主体的な学習態度形成のため学校図書館の活用を図ることなどが含まれます。

児童会活動には、委員会活動の他、異年齢集団による交流である「さわやか班活動」などが含まれます。

クラブ活動は、本校では4年生以上で実施しており、本年度は「屋外スポーツ、屋内スポーツ、卓球、音楽、パソコン、イラスト・ものづくり、家庭科、クイズ・ゲーム」の8つのクラブが児童の希望をもとに設置されています。

学校行事は、大きく5つの内容に分かれます。①儀式的行事(入学式・卒業式、始業式・終業式など)、②文化的行事(展覧会・音楽会・学芸会など。本校は、展覧会⇒音楽会⇒学芸会の順で卒業までにそれぞれを2回ずつ経験する。)、③健康安全・体育的行事(健康診断、運動会、体力テスト、マラソン大会など)、④遠足・集団宿泊的行事(1~4年生遠足、5・6年生自然教室など)、⑤勤労生産・奉仕的行事(地域清掃、ユニセフ募金など)です。

目前に迫った運動会も、「特別活動」の貴重な学習の機会です。演技や競技の出来映えや結果とともに、途中の努力の過程や友達との協働にも励ましの言葉をかけていただくと、自信と意欲につながります。

<石崎久恵講師の退任について>

この度、都合により、本校を去られることになりました。平成19年4月から16年2か月にわたって、学級担任・くすのき教室担任等を務め、卒業生をはじめとして多くの子供たちがお世話になりました。5月29日(月)に、離任式を行いました。

読書週間の取組について

学力を伸ばす かしこくプロジェクト 湯浅 孝弘

本校では読書活動の取組として、5月に「なのはな読書週間」、6月に「あじさい読書週間」、10月に「くすのき読書週間」、1月に「あわゆき読書週間」と年間4回の読書週間が設定されています。そして、1・2年生は50冊、3・4年生は30冊、5・6年生は20冊以上を読むことを目標にし、「読書のしおり」に読んだ本を1冊ずつ記録することに取り組んでいます。

5月15日の全校朝会では、図書委員会から図書室の利用の仕方について寸劇形式で発表し、図書室を積極的に利用するよう呼び掛けました。図書委員会では今後の読書週間においても、子供たちが読書活動に意欲をもって取り組めるような活動を行っていく予定です。

休み時間の図書室を覗くと、どの本を借りようか考える子や、自分が興味をもった本を集中して読む子の姿が見られます。この1年を通して、図書室や区内の図書館など様々な場所で、自分にとって「かけがえのない1冊」に出会ってほしいと願っています。

『くすのきコミュニケーション教室』ってどんなところ？

特別支援教室巡回指導教員 山田 大地 目黒 久美子

本校1階にある「くすのき教室」について紹介します。

「コミュニケーションの教室」は、都の特別支援教育に関する方針に基づき導入された制度です。制度上の名称を「特別支援教室」としていますが、区では「コミュニケーションの教室」を呼称としています。この呼称を基本に各学校で独自に愛称をつけており、千寿本町小学校では「くすのきコミュニケーション教室」として設置されています。

★子供たちの苦手なことを支援していきます★

どんな児童も一人一人、発達の特性に応じた得意・不得意があります。すぐにできるようになるものもあれば、なかなか身に付きにくいものもあります。

個別または小さい集団で指導を受けることで、集団適応力を高めていき、児童が楽しく学校生活を送ることを目指した指導を行っていきます。

★くすのき教室ではこんな学習をしています★

個別指導

- ・巡回指導教員が主に一対一で関わります。
- ・児童一人一人の「得意」「苦手」を知り、「得意」を伸ばし「苦手」を改善できるよう支援します。

小集団活動

- ・ロールプレイングを通じて実践し、対人関係の適切な関わり方を学びます。
- ・ゲームや言葉遊びを通じて、注意力、言語表現力、思考力を高めます。